



# 緑萌ゆ

新宮小・中学校校長だより 2021.11.15

## 新宮小・中学校讃歌誕生生物語

先日の全校朝会で次のような話をしました。

今日は、新宮小・中学校讃歌ができた経緯についてお話しします。讃歌が誕生したのは、平成19年（2007年）のことです。その年は、新宮小学校と寺内小学校が一緒になった年です。新宮小学校は現在の校舎の場所にあり、寺内小学校は寺内地区にあり現在も校舎が残っています。それぞれ人数が少なくなってきたこともあり、一緒になって一つの小学校になりました。そして、旧校舎にあった新宮中学校に引っ越して、小学校と中学校が同じ校舎で過ごすことになり、新宮小・中学校が誕生したわけです。

その年の、中学校のへそもの（総合的な学習の時間）のグループの一つが、せっかく一つの校舎で過ごすことになったので、全員で歌える歌を作りたいと考えました。香川さん、真鍋さん、鈴木さん、栗岡さんが中心となったグループです。そこで、校章と共に作成することにしました。まず、校章は新宮といえばお茶ということで、新宮中学校のデザインを発展させて、お茶の葉を2枚重ねて、その上に「小」と「中」の字をデザインしました。

讃歌は、まず歌詞に入れたい言葉を全校児童生徒にアンケートしました。「塩塚」や「光」「かがやき」等の言葉が出てきたと思います。それをもとに、グループで歌詞を考えました。作曲は、最初は一音一音、言葉に音を当てて作ろうとしたのですが、複数人で曲を作るというのは難しく、難航しました。そこで、そのグループの担当だった先生、鈴木正之先生が曲を作られました。鈴木先生は、中学校理科の先生でしたが、音楽が趣味で、確かギターをされていて、作曲もされていました。書き溜めた曲が何十曲もある、という話をご本人から聞いたことがあります。そして、できあがった曲をピアノ伴奏ができるように編曲したのが、その時新宮中学校の音楽の先生だった、上西佑希先生です。こうして、今に引き継がれている新宮小・中学校讃歌が誕生しました。

その時、私も永尾教頭先生も、新宮中学校で勤めていたので、大まかなことは記憶していたのですが、より正確にと考え、香川さん（現在は家中さん）に声をかけて、学校に来ていただき、詳しく話を聞きました。最初に歌詞ができたときに、校長先生にお見せすると、歌いだしの部分が国語の文法的におかしいということで（校長先生は中学校の国語の先生でした）変更になり、今の「みどりもゆ」になったという裏話を聞きました。今、この校長だよりの題にもなっている「みどりもゆ」が最初は違っていたということを知り驚きました。作成途中には、思うようにいかなかったり、意見が合わなかったりとなかなか大変だったようです。その歌が、今では入学式、卒業式で校歌のように歌われていたり、手話付きになっていたりすることを知って、大変驚くとともに、とてもうれしいと喜んでいました。体育館の木彫りの歌詞も見ていただきました。当時のへそものグループの先輩が苦労しながら作成し、これまで大切に歌い継がれてきた讃歌を、これからも大切に歌い継いでいってほしいと思います。

